

## リトアニアの児童書選書にかかわる調査報告書

東京外国語大学講師 櫻井映子  
(リトアニア語・リトアニア文学)

この報告書は次のような内容により構成される。まず、1節では、2021年7月14日時点で国際子ども図書館が所蔵するリトアニア語児童書（以下、単に「所蔵児童書」）についての評価・知見を述べる。続く2節でリトアニアの主要な児童書賞に関する情報（主催団体、受賞の対象等）をまとめ、3節でリトアニアの児童書に関する主な資料を紹介し、4節でリトアニアにおける児童書の出版状況を概説し、最後に5節でリトアニアの図書館の児童書部門・センターの概況について報告する。

### 1. 国際子ども図書館所蔵リトアニア児童書および児童書に関する研究書の評価

国際子ども図書館所蔵リトアニア出版児童書および関係資料計 234 冊（児童書 226 冊、大人向け研究書 8 冊；リトアニア語 224 冊（他言語併記の資料を含む。）、英語 4 冊、ロシア語 5 冊、ラトヴィア語 1 冊）は、日本におけるリトアニアという国の認知度やリトアニア語の普及度を鑑みれば、量・質ともにきわめて充実したものと言える。

#### 1.1. ソ連時代以前の作品

まず、所蔵児童書には、ソ連時代以前に創作されたリトアニアの児童文学作品が含まれる。主要なものを挙げれば（【】内は国際子ども図書館請求記号、[]内は筆者による補足）、Stepas Zobarskas の『牧草地の子どもたち』（*Ganyklų vaikai* 【Y8-B7209】）、Liudas Dovydėnas の『むかし王様がいました』（*Gyveno kartą karalius* 【Y8-B8596】）、Vytautas Tamulaitis の『夏の物語』（*Vasaros pasaka* 【Y17-B8803】）、Kazys Binkis の『仕事を成し遂げよ』（*Dirbk ir gerai* 【Y17-A143】）、『ヨナスとジプシー』（*Jonas pas čigonus* 【Y17-A6518】）、『白い狼』（*Baltas vilkas* 【Y17-A156】）、Vincas Pietaris の『狐の生と死』（*Lapės gyvenimas ir mirtis* 【Y17-A157】）、Vytė Nemunėlis の『こぐまのルドノシュカス [茶色鼻くん]』（*Meškiukas Rudnosiukas* 【Y17-A6517】）など。

所蔵されているソ連時代活躍した詩人・作家の代表的な児童文学作品としては、Salomėja Nėris の『おばあさんのおはなし』（*Senelės pasaka* 【Y17-A49】）、Judita Vaičiūnaitė の『色つきの絵』（*Spalvoti piešiniai* 【Y17-B100】）、Janina Degutytė の『日の出と歌に』（*Į saulėtekį ir dainą* 【Y17-B10870】）、『おいていかないで』（*Nepalik manęs* 【Y8-B8868】）、Justinas Marcinkevičius の『キノコたちの戦争』（*Grybų karas* 【Y17-B15200】）、Jonas Avyžius の『大きな入海の住民たち』（*Didžiojo užutėkio gyventojai*）、Kazys Saja の『グヴィドナスの外套』（*Gvidono apsiaustas* 【Y8-B7172】）、『リンゴの種の占い』（*Būrimas obuolio sėklom* 【Y8-B14946】）、Mykolas Sluckis の『王様になりたくなかった巨人たち』（*Milžinai nenorėjo karaliais*

būti【Y8-B7179】）、Kostas Kubilinskas『ぼくのくつはふたつあった』（*Mano batai buvo du*【Y8-A5167】）、『氷の子』（*Ledinukas*【Y17-B15176】）、Martynas Vainilaitis の『ハリネズミの家』（*Ežio namas*【Y17-B8747】）、『私のウグイス』（*Mano volungėlė*【Y17-B8753】）、Ramutė Skučaitė の『日曜日への手紙』（*Laiškas sekmadieniui*【Y8-A5164】）など。これらはすべて、リトアニア児童文学の古典と呼ぶことができるであろう重要な作品である。

## 1.2. リトアニア独立回復後の重要な作家・画家の作品

所蔵児童書に9冊の絵本<sup>1</sup>が含まれる Kęstutis Kasparavičius は、ソ連時代にイラストレーターとして頭角を現し、独立回復後は自らテキストも手掛けるようになった、リトアニア国内外でよく知られる絵本作家である。親しみやすいスタイルで描かれた Kasparavičius の短くシンプルな物語の数々は、国や民族を超え、子どもたちの心を惹きつけるものであり、今後も収集されることを勧めたい<sup>2</sup>。

リトアニアの子どもたちに最も愛されているもう一人の子どもの本の書き手である Selemonas Paltanavičius は、自然科学者、旅行家、写真家であり、所蔵児童書にある『ハリネズミの小さな夢』（*Maži ežiuko sapnai*【Y8-B18059】）、『小さなあくまと小さなヒバリ』（*Velniukas ir vieversiuukas*【Y17-B12752】）といった児童文学作品のみならず、『自然の年輪』（*Gamtos metų ratas*【Y11-D145】）などの児童教育書（ノンフィクション、知育本）も数多く出版している。Paltanavičius はまた、リトアニアの学校や図書館を度々訪れ、様々なイベントにゲストとして積極的に参加し、児童書の普及のために尽力している人物である。

その他、作家の Gintarė Adomaitytė は、所蔵児童書にある『風の街の物語』（*Vėjų miesto pasakos*【Y17-B8796】）のような児童文学作品を執筆するだけでなく、児童文学作家らに関する資料を収集し、後に研究書『美女の子どもたち』（*Gražuolės vaikai*【YZ-B1507】）にまとめた。所蔵児童書に5作品が含まれる Renata Šerelytė の本<sup>3</sup>もリトアニアの子どもたちに大変人気がある。

Lina Žutautė が創作した絵本の中の少女カケ・マケ（*Kakė Makė*）は、リトアニアに一大ブーム巻き起こしたキャラクターである。約10冊の絵本が出版されたが、それらの多くが所蔵児童書に含まれている<sup>4</sup>。このシリーズは、現在では、カケ・マケが子どもたちに様々な分野の知識を得る手助けをする児童教育書、塗り絵の本、百科事典などに発展している。

その他、詩人の Vladas Braziūnas とイラストレーターの Sigutė Chlebinskaitė、二人の才能あるアーティストによって製作された『コクマルガラスのクロの生涯と逆さま』（*Kuosos Kro gyvenimas ir atvirkščiai*【Y8-B12762】）、近年、精力的に製作し続けている Marius Marcinkevičius の『不思議な湖』（*Sivužas*【Y17-D586】）、『逆さま家族』（*Atvirkštukai*【Y17-D588】）、『小さな子どもたちのための小さな詩』（*Maži eilėraščiai mažiems*【Y17-D607】）といった秀作が所蔵児童書に含まれているのは大変喜ばしいことである。

<sup>1</sup> 国際子ども図書館請求記号：Y17-B8743、Y17-B8744、Y17-B8745、Y17-B8746、Y17-B10869、Y17-B15174、Y17-B21017、Y17-B21018、Y17-D589

<sup>2</sup> ブックリスト No.103,127~134 参照。

<sup>3</sup> 国際子ども図書館請求記号：Y8-A5163、Y8-B12754、Y8-B13717、Y8-B17905、Y17-B12751

<sup>4</sup> 国際子ども図書館請求記号：Y17-D577、Y17-D580、Y17-D581、Y17-D582、Y17-D583、Y17-D584。ブックリスト No.186~188 参照。

所蔵児童書には、シリーズとなっている児童書も含まれる。2冊の本『魔王の使者』（*Šėtono legatas*【Y8-B7173】）と『二本の剣』（*Du kalavijai*【Y8-B7246】）は、Skomantas というペンネームで複数の著者がリトアニア中世史をテーマにした作品を執筆しているシリーズで、約20冊の本によって構成されている<sup>5</sup>。また、リトアニアで人気のある児童文学作家と言えば、Tomas Dirgėla も外せないだろう<sup>6</sup>。とくに子どもたちに親しまれているのは、ドーマス（Domas）とトマス（Tomas）の探偵シリーズである。Dirgėla の作品はすべて楽しい冒険と漫画風のイラストレーションが持ち味である。

### 1.3. リトアニアの児童書賞の受賞作

所蔵児童書中、以下の本が、後述する IBBY リトアニア支部による児童およびティーンエイジャーのための本の最優秀賞のうち、各年の最優秀児童図書部門を受賞している。Jurga Vilė の『シベリアの俳句』（*Sibiro haiku*【Y2-D20】、2017年受賞）、Gendrutis Morkūnas の『帰還物語』（*Grižimo istorija*【Y8-B10559】、2007年受賞）、『ノミの物語』（*Blusyno pasakojimai*【Y8-B10560】、2008年受賞）、『借りられっ子の暮らしから』（*Iš nuomšiko<sup>7</sup> gyvenimo*【Y8-B12753】、2010年受賞）、Renata Šerelytė の『レベッカの島々』（*Rebekos salos*【Y8-B17905】、2014年受賞）、Vilė Vėl の『アフリカから手紙を書いて』（*Parašyk man iš Afrikos*【Y8-B7171】、2003年受賞）、Vytautas V. Landsbergis の『馬のドミニカスの愛』（*Arklis Dominyko meilė*【Y17-B8735】、2004年受賞）、Kęstutis Kasparavičius の『ばかげたおはなし』（*Kvailos istorijos*【Y17-B8745】、2005年受賞）、Violeta Palčinskaitė の『トロールのための音楽』（*Muzika troliui*【YU81-B458】、2011年受賞）、Neringa Vaitkutė の『クランピーネスのクロニクル』（*Klampynių kronikos*【Y8-D733】、2018年受賞）、Vytautė Žilinskaitė の『恐れを知らない女の子』（*Nebijokė*【Y8-A5180】、2000年受賞）、『キンタス<sup>8</sup>』（*Kintas*【Y8-B7185】、2006年受賞）。ここでは割愛するが、以上の本以外にも、他の児童書を対象とした賞を受賞している作品が所蔵児童書の中に含まれている。

### 1.4. イラストレーションが優れた作品

最後に、所蔵児童書に含まれる、優れて芸術的なイラストレーションにより高く評価されている本について触れておきたい。まずは1.2で紹介した Kęstutis Kasparavičius の一連の絵本、Lina Itagaki の『シベリアの俳句』（*Sibiro haiku*【Y2-D20】）、Inga Dagilė の『歴史の醍醐味』（*Istorijos skanėstai*【Y2-D68】）、『象がお客に行った』（*Drambliai ėjo į svečius*【Y17-B21282】）、Taida Balčiūnienė の『チュンチュンすずめがきました』（*Klausė žvirblis čiulbuonėlis*【Y6-A4】）、Rimvydas Kepežinskas の『バオバブの下のコヒツジ、またはしっぽのあるセーター』（*Ėriukas po baobabu, arba Megztinis su uodega*【Y8-A5163】）、『リンゴのおはなし』（*Obuolių pasakos*【Y8-A5182】）、『色と数字』（*Spalvos ir skaičiukai*【Y17-A6511】）、Jūratė Račinskaitė の『日曜日への手紙』（*Laiškas Sekmadieniui*【Y8-A5164】）、『わたしはだあ

<sup>5</sup>ブックリスト No.75 参照。

<sup>6</sup>国際子ども図書館請求記号：Y8-D307、Y8-D502、Y8-D732。ブックリスト No.34,35,145,196 参照。

<sup>7</sup>単語 nuomšikas（借りられっ子、レンタル子）は著者の Morkūnas による造語で、一時労働者として借りられる養護施設の児童を指す。支払われる報酬は、養護施設の収入となる。

<sup>8</sup>キンタスは、主人公の少年の名前である。

れ?』 (*Aš esu -- kas?* 【Y17-B10530】)、『いそがなくてもよかったら』 (*Jeį nereikėtų skubėti* 【Y17-B12753】)、Irena Žviliuvienė の『奇跡の街』 (*Stebuklingas miestas* 【Y8-A5165】)、Lina Žutautė のカケ・マケシリーズ、『フェルディナンドとプー、オーストラリアへの旅』 (*Ferdinandas ir Pū, žygis į Australiją* 【Y8-B18079】)、Lina Dūdaitė の『カモメと飛び方を教えた猫について』 (*Apie žuvėdrą ir katiną, kuris išmokė ją skraidyti* 【Y8-B10561】)、『不思議な湖』 (*Sivužas* 【Y17-D586】)、Lina Eitmantytė-Valužienė の『スズメといっしょのたんじょうび』 (*Gimtadienis su Žvirbliu* 【Y8-B10562】)、『自然の年輪』 (*Gamtos metų ratas* 【Y11-D145】)、『小さなハリネズミの夢』 (*Maži ežiuko sapnai* 【Y8-B18059】)、Stasys Eidrigėvičius の『ラウメの物語』 (*Laumių pasakos* 【Y8-B12788】)、Leonardas Gutauskas の『古い塔の住民』 (*Senoji bokšto gyventojai* 【Y8-B12793】)、『ネコのひげは何のため』 (*Kam katinui ūsai?* 【Y8-A5166】)、Sigutė Ach の『馬のドミニカスの愛』 (*Arklio Dominyko meilė* 【Y17-B8735】)、『アンブロジウスが最初に始める』 (*Ambrozijus pradeda pirmas* 【Y17-B8742】)、『アンブロジウスとプルキウスと天使』 (*Ambrozijus, Purkijus ir Angelas* 【Y17-B8741】)、Marius Jonutis の『リンゴのおはなし』 (*Obuolių pasakos* 【Y8-B7853】)、『ガラスの山の女王』 (*Karalaitė ant stiklo kalno* 【Y8-D514】)、Bronius Leonavičius の『色つきの絵』 (*Spalvoti piešiniai* 【Y17-B100】)、Ieva Babilaitė の『ものすごく美しい詩』 (*Baisiai gražūs eilėraščiai* 【Y17-D597】) など、いずれも素晴らしいイラストレーションが絵本の価値を高めている。リトアニア語を解さない読者であっても、これらの絵本のイラストレーションの芸術性に心惹かれるであろう。

## 2. リトアニアの主要な児童書賞

ここでは、リトアニアで出版された児童書を対象とした主要な賞を紹介する。

### (1) IBBY リトアニア支部による児童およびティーンエイジャーのための本の最優秀賞 (Geriausių metų knygų vaikams ir paaugliams premijos)

まず、今回のブックリスト作成に当たり最も重視した児童文学賞は、1992年に創設され、IBBY (国際児童図書評議会) リトアニア支部により毎年選考・授与されている、その年に出版された児童およびティーンエイジャーのための本に対する最優秀賞である。賞の目的は、芸術的に価値のあるリトアニアの児童書、高品質の翻訳、優れたイラストレーション、水準の高い児童教育書、児童書に関する研究書等の出版を支援し、児童書の普及と児童の読書習慣の定着を目指すことである。また、教育者、図書館員、保護者が価値のある本を探す手助けをすることも目的の一つである。受賞対象となる本は、新奇的であると同時に、芸術的かつ教育的価値がある必要がある。現在、最優秀児童図書に授与されるプラーナス・マシヨータス賞 (Prano Mašioto premija)、最も美しい本に授与されるドミツェーレ・タラビディエネ賞 (Domicėlės Tarabildienės premija)、最も重要なデビュー作品に授与されるアルドナ・リョビーテ賞 (Aldonos Liobytės premija) 等、8つの部門の賞がある。受賞作品は、IBBY リトアニア支部の理事会の決議によって選ばれた、児童文学者、美術研究者、教育者、図書館員、イラストレーター、言語学者によって構成される委員会によって選出される。

<https://www.ibbylietuva.lt/geriausiu-metu-knygu-vaikams-ir-paaugliams-premijos/>

## (2) 文部科学スポーツ省による児童文学賞 (Švietimo, mokslo ir sporto ministerijos Vaikų literatūros premija)

文部科学スポーツ省児童文学賞は、2004年に創設された。賞の目的は、リトアニアの作家が児童書を創作することを奨励し、児童文学の普及を促進することである。児童文学の分野での貢献と、児童文学と読書の促進の貢献、2つの部門の賞がある。

<https://www.svietimonaujienos.lt/svietimo-mokslo-ir-sporto-ministerijoje-iteikta-vaiku-literaturos-premija/>

<https://www.delfi.lt/kultura/naujienos/vaiku-literaturos-premija-paskirta-ignei-zarambaitei-ir-zofijai-vainilaitienei.d?id=86852219>

## (3) リトアニア共和国文化省によるブックアートコンクール (Lietuvos Respublikos kultūros ministerijos Knygos meno konkursas)

文化省は、毎年、児童書のブックアートコンクールを発表している。1996年から開催されており、受賞者（児童書の創作に関わる芸術家、出版社、印刷業者）の賞とディプロマ賞は、伝統的にヴィリニウス・ブックフェアで発表される。

## (4) アロイーザス・ペートリカス文学賞 (Aloyzo Petriko literatūrinė premija)

アロイーザス・ペートリカス文学賞は、リトアニア作家連合 (Lietuvos rašytojų sąjunga) により2017年に創設された。過去2年間に出版された、リトアニアの作家による児童と若者向けの最も優れた新しい本に対する賞であり、コンテストで選ばれた作品に授与される。この賞は、1933～1939年にリトアニア赤十字社が主催したリトアニア赤十字賞 (Lietuvos Raudonojo Kryžiaus premija) の伝統を引き継いだものである。当時、リトアニア赤十字の理事長であった Aloyzas Petrikas (1893–1964) がこの賞の創始者である。

<https://l1a.lt/lt/naujienos/321-paskelbtas-aloyzo-petriko-literaturines-premijos-konkursas>

<https://www.ibbylietuva.lt/rubinaitis/2000-nr-1-13/vaiku-literaturos-premijos-tarpukario-lietuvoje/>

## (5) マルティーン・ヴァイニライティス文学賞 (Martyno Vainilaičio premija)

ヴァレナ地区自治体によって2010年に創設されたマルティーン・ヴァイニライティス文学賞は、過去2年間に出版された、神話のモチーフによる文学作品を書いた作家に授与される。Martynas Vainilaitis (1933-2006) は、ヴァレナ出身の著名な詩人であり、主に子どもたちのために民話や神話の要素を含んだ詩を書き、翻訳も手がけた。

<http://www.danielius.net/straipsniai/sesta-karta-ezio-dvare>

## 3. リトアニアの児童書に関する主な資料

リトアニアの児童書の調査に際しては、まず、児童文学研究者の Kęstutis Urba による記事や論文を参照することを勧めたい<sup>9</sup>。

<https://www.ibbylietuva.lt/ibby-garbes-sarasas/>

<https://lithuanianculture.lt/kategorija/leidiniai/>

---

<sup>9</sup>ブックリスト No.1,2 参照。

ソ連時代のリトアニアの児童書に関する主な情報源としては、Vincas Auryla 著『リトアニアの児童文学』（*Lietuvių vaikų literatūra*）<sup>10</sup>が挙げられる。これは、ソ連時代の政治的イデオロギーの脚色を排除すれば、今なお十分に役立つ概説書であるが、リトアニアの児童文学史上において重要な役割を果たした亡命作家（第二次世界大戦の前後にリトアニアを出国した児童文学作家）たちについての記述を欠いている。独立回復後、まずその欠落を埋めることになったのは、1994年に創刊されたリトアニア唯一の児童文学専門誌『ルビナイティス』（*Rubinaitis*）の亡命児童文学作家らに関する特集「リトアニアの児童向け亡命文学」（*Lietuvių išėivijos literatūra vaikams*）（*Rubinaitis* Nr. 2 (3)、1995）である。

<https://www.ibbylietuva.lt/rubinaitis/1995-nr-2-3/>

これに関しては、Vincas Auryla もまた、「リトアニアの亡命児童文学」（*lietuvių išėivijos vaikų literatūra*）という解説を『リトアニア大百科事典』（*Visuotinė lietuvių enciklopedija*, 2001–2015）に寄稿している。

<https://www.vle.lt/straipsnis/lietuviu-iseivijos-vaiku-literatura/>

その他、個々の児童文学作家に関する研究書やエッセイも出版されている。Jonas Linkevičius の『琥珀の首飾りから』（*Iš gintarų vėrinio*）<sup>11</sup>、『ヴィータウタス・ラチツカス』（*Vytautas Račickas*）<sup>12</sup>、『ヴィータウタス・タムライティス』（*Vytautas Tamulaitis*）<sup>13</sup>、『セレーモナス』（*Selemonas*）<sup>14</sup>などが挙げられる。また、Rima Pavilionytėによる解説が付された『リトアニアの本のイラストレーション』（*Book Illustration in Lithuania*）<sup>15</sup>は、イラストレーターに関する概説書として重要である。

なお、今回のブックリスト作成のために最も役立つ資料の一つは、2017年に出版された、児童および若者を対象とする最も重要なリトアニア人作家による本のカタログ『子どもたちとリトアニアのための百冊』（*Šimtas knygų vaikams ir Lietuvai*）である。

<https://www.ibbylietuva.lt/100-knygu-vaikams-ir-lietuvai/>

このカタログは、文学者、教育者、児童図書館員、保護者らを対象とした大規模な調査を基に作成された。候補となった 500 冊の本の中から、リトアニア人作家による最も重要で価値のある作品 100 冊が選ばれている。リトアニア児童文学に関心を抱く人々のための優れたガイドとなろう。

#### 4. リトアニアにおける児童書の出版概況

2020年にリトアニアで出版された児童書の数は 560 冊であり、それ以前と比較して大きな変化はない。これは、リトアニアの出版統計データによれば、国において出版されたすべての書籍の約 15 パーセントを占める。リトアニアの児童書出版を牽引する立場にあるのは、Alma littera と Nieko rimto という 2 つの出版社である。これらの出版社から出版された児童書の数は、合わせて全体の 42 パーセントを占めている。詳細は、後述する国立マルティエーナス・マージュヴィダス図

---

<sup>10</sup> ブックリスト No.220 参照。

<sup>11</sup> ブックリスト No.221 参照。

<sup>12</sup> ブックリスト No.222 参照。

<sup>13</sup> ブックリスト No.223 参照。

<sup>14</sup> ブックリスト No.224 参照。

<sup>15</sup> ブックリスト No.225 参照。

書館 (Lietuvos nacionalinė Martyno Mažvydo biblioteka) 児童およびヤングアダルト文学部門の専門員である Roma Kišūnaitė の記事を参照。

<https://www.lnb.lt/tevams-ir-specialistams/naudingi-straipsniai/6909-2020-metu-vaiku-knygu-leidybos-diagnoze-yra-super-2>

<https://www.ibbylietuva.lt/naujienos/2019-ieji-vaiku-knygu-leidyboje-kas-kiek-kokiu/>

## 5. リトアニアの図書館の児童書部門・センターの概況

リトアニアの子どものための図書施設の中でも主要な位置を占めるのは、リトアニア最大の規模と蔵書数を誇る国立マルティエナス・マージェヴィダス図書館の児童書部門である。1964年の設立当初の名称は児童文学課 (Vaikų literatūros skyrius) であったが、1994年に児童文学センター (Vaikų literatūros centras)、2016年に児童およびヤングアダルト文学部門 (Vaikų ir jaunimo literatūros departamentas) と改名し現在に至る。2020年にはおよそ3万8千人が訪問した。

<https://www.lnb.lt/vaiku-ir-jaunimo-departamentas>

リトアニアでは、各地区の図書館 (市町村に帰属) に児童文学部門があり、それらはリトアニア全国で併せて約70になる。現状の調査は存在しないが、2015年に国立マルティエナス・マージェヴィダス図書館の児童文学センター (現児童およびヤングアダルト文学部門) の専門員である Jolanta Savukynaitė が、前年の2014年に公共図書館の児童文学部門から収集したデータを基に報告書をまとめている<sup>16</sup>。それによれば、読者の数は以前と比べて約2%減少している (近年、リトアニアにおいて、移民による人口の流出と出生率の低下により、子どもの数が減少していることも関係していると考えられる)。全国の図書館の児童書に関わる職員らは、新しい教育プログラムの開発、様々なキャンペーンやコンテストの開催など、子どもたちの関心をひくための試みを続け、日々努力を重ねている。しかしながら、新型コロナウイルスの蔓延による打撃は大きく、大半の図書館が、出版物を購入するための資金の不足の問題を抱えている<sup>17</sup>。

以上

---

<sup>16</sup> Jolanta Savukynaitė, „Vaikai Lietuvos viešosiose bibliotekose 2014 m.“ Tarp knygų. Nr. 12, 2015, pp. 9-11.

<sup>17</sup> 同上